

三位一体の主日 (ヨハネ 3:16-18)

父と子と聖霊の溢れる愛を私も受けた



三位一体の主日を迎えました。父と子と聖霊の神を身近に感じられるようになりたい。その思いで与えられた朗読に耳を傾けましょう。短い朗読の中で、「御子を信じる」ということが四回も出てきます。これは御子を信じるのがどれほど大切かを考えさせたためです。

御子を信じる事ができれば、御父を信じる事ができます。「子」がいらっしゃれば「父」がおられるのは当然のことですね。そして「御子」を信じる事ができれば、御子自身が約束してくださった、弁護者として遣わしてくださる「聖霊」も信じる事ができます。御子を信じる事ができるか。そこにすべてがかかっているわけです。

中田神父は、御子イエス・キリストを信じる事のできる十分な理由が聖書の中にあると思っています。神は、私たちのためにその独り子をお与えくださいました。神は人類の救いのために、その独り子を示してくださるだけで十分だったはずですが、それだけで終わらず、御父は御子を人類に与えてくださったのです。「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。」(3・16)

神はその独り子を、一度だけ与えてくださったのでしょうか。人となって私たちのためにおいでくださった。この時だけでしょうか。そうではありません。人類は神が人となっただけでは心を神に向け直す事ができませんでした。そこで神はもう一度、独り子をお与えになったのです。十字架上で、そして祭壇の上で、罪の赦しと救いの完成のために、再び与えてくださったのです。

たとえを用意しました。比べて考えてみましょう。私たちが少し大きな買い物をして、支払いを済ませたとしましょう。間違いなく支払いを済ませたのに、お店から「支払いをお願いします」と言われたとします。お店の言い分は正しいでしょうか？

確実に支払ったのですから、支払う理由はありません。二度支払う、二度与えるというのは、これと同じ体験です。買い戻すために、二重になってしまうと分かっているのに、もう一度支払った。これと同じことを、神は人類のためにしてくださったのです。私たちが罪から解放するため、罪に支配されている状態から買い戻すために、二度も御子を与えてくださったのです。

これが聖書が示してくださる御子イエス・キリストを信じる事のできる理由です。私たちには決して支払えない代償を、父なる神は御子を通して支払ってくださった。神はここまで私たちが愛してくださったのです。御子をご自分を二度与えることで愛を示してくださったのです。この世のすべてが信じられなくなったとしても、神が示された愛は十分信じる事ができます。

そして、世を愛してくださった神は、今も人類を愛し続けておられます。そのしるしは聖霊です。神はいつも、いつまでも人類を愛し続け

全能の神よ、聖なる福音をふさわしく告げるため、わたしの心と口を清めてください。

るため、恵みを与え続けるために聖霊を与えてくださったのです。父と子と聖霊がそれぞれの働きを通して、人類を愛し続けていることを証明してくださっています。これは「神が人類を愛してくださっている」という一つの働きの、三つの側面なのです。

三位一体の神様は、つねに豊かで、愛に溢れておられます。愛が溢れているなら、それはどこかへ注がれるはずですが、神の愛は、人間に注がれました。御子を通してこれ以上無いほどに注がれましたが、この神の愛は今も、聖霊を通して注がれています。父と子と聖霊の、これほどの愛を、今日特に感謝しましょう。

三位一体の神の、溢れる愛を私たちが受けているなら、私たちの中でも、神の愛は溢れることでしょうか。溢れるほどの愛は、次はどこに注がれるのでしょうか。あふれるほどに注がれた愛を、心に浮かぶあの人に届ける。三位一体の神様が、今週私たちにお与えになる使命だと思えます。

キリストの聖体(ヨハネ 6:51-58)

福音のことばによって、わたしたちが罪から清められますように。